

### 第3回「第2期県立高校将来構想検討協議会」の協議の概要について

#### 1 開催日

平成26年10月20日（月）

#### 2 協議の概要

##### (1) 平成26年7月に実施した「県民意識調査(アンケート)結果」の主な意見

- 高校生活の満足度が、平成14年の調査結果より10%以上伸びていることは、現行の将来構想の成果の一つと考えてよい。
- 進学した高校が学校・学科ともに第一希望と異なる生徒のうち、高校生活に満足していない生徒は、学年によって違うのか、また、現在どの学科に在籍しているかを分析する必要がある。

##### (2) 「第4章 特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備について」のうち、「1 特色ある学校づくり」の協議における主な意見

- 高校教育は、地域の発展に貢献する人材を育成するという重要な役割を担う必要がある。
- 理数科には、自然科学系人材を育成する役割があるが、文系学科をめざす生徒も在籍している現状があることから、今後、課題研究を重視する探究科の導入について検討することが大切である。
- 大学進学に重点を置く拠点校を、学校規模を確保しながら、地域バランスを踏まえて設置する必要がある。
- 公立高校の使命としては、成績だけを重視するのではなく、学び直しの部分も必要である。生徒から選ばれる普通科にするためには、進学だけでなく、二つ三つの特色を併せ持つべきである。
- 専門学科については、最新の施設・設備を整備するとともに、産業技術センターや農業試験場など、県の施設・設備の機能を活用することも大切である。
- 専門学科においては、卒業後に最先端の分野でも活躍できるよう、3年間専門性を極める教育が必要である。
- 農業教育を充実させるためには、地域バランスを踏まえ、拠点校を置くべきである。
- 看護・福祉の世界では、より高度な資格取得が重要であり、5年一貫を前提とした教育を考える必要がある。
- 中学校卒業後、進路未決定者が多い中、定時制・通信制課程には学び直しの教育を期待しており、このため、多部制を増やすことが望まれる。また、こうした生徒に対応するため、中山間部の小さな高校を残すことも考えてほしい。